

# 使徒の働き

著作および編集者：杉本憲昭（国際ナビゲーター・スタッフ）

## 目次

バイブル・ディスカッション	使徒 1 章 1 節～11 節	2
バイブル・ディスカッション	使徒 1 章 12～26 節	3
バイブル・ディスカッション	使徒 2 章	4
バイブル・ディスカッション	使徒 3 章	5
バイブル・ディスカッション	使徒 4 章 1～31 節	6
バイブル・ディスカッション	使徒 4 章 32～5 章 16 節	7
バイブル・ディスカッション	使徒 5 章 17～5 章 42 節	8
バイブル・ディスカッション	使徒 6 章	9
バイブル・ディスカッション	使徒 7 章	10
バイブル・ディスカッション	使徒 8 章	11
バイブル・ディスカッション	使徒 9 章 1～31 節	12
バイブル・ディスカッション	使徒 9 章 32～43 節	13
バイブル・ディスカッション	使徒 10 章～11 章 18 節	14
バイブル・ディスカッション	使徒 11 章 19 節～30 節	15
バイブル・ディスカッション	使徒 12 章	16
バイブル・ディスカッション	使徒 13 章	17
バイブル・ディスカッション	使徒 14 章	18
バイブル・ディスカッション	使徒 15 章 1 節-35 節	19
バイブル・ディスカッション	使徒 15 章 36 節-16 章 40 節	20
バイブル・ディスカッション	使徒 17 章	21
バイブル・ディスカッション	使徒 18 章 1 節-23 節	22
バイブル・ディスカッション	使徒 18 章 24 節-19 章 41 節	23
バイブル・ディスカッション	使徒 20 章	24
バイブル・ディスカッション	使徒 21 章	25
バイブル・ディスカッション	使徒 22 章-23 章	26
バイブル・ディスカッション	使徒 24 章-26 章	27
バイブル・ディスカッション	使徒 27 章-28 章	28
引用		29

本書を許可なく複製使用することをご遠慮ください。

©2015 by Noriaki Sugimoto All right reserved

イエスが復活した後、弟子たちはどのように働きを進めて言ったのかが、これから読んでいく「使徒の働き」に記されています。イエスのよい知らせはいついどのようにして、多くの人々に伝えられていったのでしょうか。初期の働きで大きな役割を果たしているのは、「神の霊(聖霊)」の働きです。ユダヤ人への働きかけにはじまり、非ユダヤ人(異邦人)への働きかけは、思いがけない展開をみせてくれます。

1. イエスは、四十日の間、彼らに現れて、神の国のことを語った、と書かれていますが、どんなことを語ったと思いますか。(3節)
  
2. 「聖霊のバプテスマ(洗礼)」と聞いて、どうして使徒たちは、「イスラエルの国を建て直してくださる」という考えをもったのでしょうか(5, 6節)
  
3. それに対するイエスの応答から、どんなことがわかりますか？
  
4. イエスは彼らが見ている間に上げられ、雲に包まれ、見えなくなりました。弟子たちはどんな思いで見えていたと想像しますか。(9節)
  
5. 弟子たちが見上げていると、白い衣を着た人がふたり、彼らのそばに立っていて、こういいました。「あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たときと同じ有様で、またおいでになります。」それを聞いた弟子たちはどう思ったでしょう。

**[参照]**

- ・ **テオピロ**：実在の人物ではないとか、政府の高官であったため、実名を使わず、仮名にしたとか、さまざまな説がある。ここでは、一般的だと思われる、「ローマの中産階級の代表的な人物」(1)だったという説をとることにする。テオピロはルカの福音書を通して、すでにイエスの生涯の知識がある程度もち、弟子たちについても理解はあっただろう。そこで、ルカは彼にさらに詳しい知識を伝えようとしたようだ。

父の約束を待つようにと言われていた弟子たちは、イエスが天にのぼった後、どうしたのでしょうか。それが今回の箇所にかかれてあります。

1. 11 人の弟子たちはエルサレムに入ると、泊まっていた家の上の部屋へ行きました。そこで婦人たちがイエスの兄弟たちと心を合わせて祈ります。何を祈っていたのでしょうか。
2. 120 名の人々が集まっていたと記されていますが、どこに集まっていたと想像しますか。
3. ペテロはイエスを裏切ったユダについて、旧約聖書から説明します。どうして、これほど深い理解をペテロはもてたのでしょうか。
4. またペテロは、ユダがいなくなったので、ひとりを使徒に加えるべきだと主張します。どうしてそう考えたのでしょうか。
5. 二人を 12 使徒の候補に挙げますが、どういう基準を大切に考えたと思いますか。

**[参照]**

- ・安息日に歩くことが許される距離：もちろん、旧約聖書に細かい規定があるはずもない。時間を経るうちに、細かい規定が作られていった。何でもそうだが、基準としての形があるほうが、その戒めを守る側としてはやりやすいのであろう。その距離は「二千キュビトであった(出 16:29、民 35:5)。一キュビトを約四十五センチとすれば、ほぼ九百メートルになる。」(2)
- ・くじ：旧約聖書では、ものごとを決めるときに方法であり、運まかせということではない。神が決めてくださる方法として用いられた。

1 章で、「もう間もなく、聖霊のバプテスマを受ける」とイエスが弟子たちに話したことが実現しました。いったい何が起こったのでしょうか。そのことが 2 章に描かれています。

1. みな(一同)とは誰のことでしょう。また、どこに集まっていたと思いますか。
2. 物音を聞いて、おおぜいの人々が集まってきたと書かれています。どこに集まってきたのでしょうか。
3. みな聖霊に満たされ、他国の言葉で話し出しました。聖霊に満たされた結果として様々なことが起こりえたと思いますが、実際に起こったことは、みな他国の言葉で話し出したことです。このことは何かを暗示しているのでしょうか。
4. ペテロの話聞いて、人々は心を打たれました。どういう原因が考えられますか？(37 節)
5. その日 3000 人ほどが弟子に加えられました。その弟子たちの様子が書かれていますが、具体的にイメージしてみてください。
6. その後のイエスの弟子たちの生活が描かれています(43-47 節)。これはいつの時代にも実践するように勧められているのでしょうか。この生活から、何か参考になることがありますか？

**[参照]**

- **五旬節**：旧約聖書で定められた祭りの一つ。次のように書かれている。「あなたがたは、安息日の翌日から、すなわち奉献物の束を持って来た日から、満七週間が終わるまでを数える。七回目の安息日の翌日まで五十日を数え、あなたがたは新しい穀物の捧げ物を主にささげなければならない。」(レビ記 32 : 15, 16)

使徒 2 章では、聖霊が下り、不思議なことが起こりました。また、ペテロの話聞いて 3000 人もの人がイエスの弟子に加えられたことを見ました。特殊な状況だとはいえ、驚くべきことが起こりました。3 章ではペテロとヨハネが登場します。それでは 3 章を読んでいきましょう。

1. ペテロとヨハネは午後 3 時の祈りの時間に宮に上っていった、と書かれています。それはユダヤ人の習慣ですから、ごく自然なことです。ここから、何か読み取れることはあるでしょうか。
  
2. そして、二人は生まれつき足の不自由な男に出会います。どうして、ペテロはこの人を癒したのでしょうか。他にも生まれつき足の不自由な人など施しを求めていた人が門の近くにいたかもしれません。癒してくださいと頼まれたわけでもなく、生まれつき足の不自由な男がそのことを期待していたようにはみえませんが。  
この足の不自由な男が癒された後の行動から、この男について読み取れることがあるでしょうか。
  
3. その男はペテロとヨハネに施しを求めましたが、ペテロはヨハネとともに、その男を見つめて「私たちを見なさい」といいます。これにはどういう意図があるのでしょうか。
  
4. ペテロは「金銀は私にはない。しかし、私にあるものをあげよう」と言います。ペテロにあるものとは何でしょう。では、私たちにあるものとはなんでしょうか。
  
5. ペテロが長い説教をします。イエスがまだ生きておられたころ、的はずれな理解をしていたペテロ、しかもただの漁師であるペテロが、これだけの話をするができることも驚きです。(12-26) このペテロの話の内容から気づいた点があれば、挙げてみてください。
  
6. ペテロの話聞いた人はどう思ったでしょう。

ペテロとヨハネは 3 章で、生まれつき足の不自由な男を癒し、さらに神殿で説教を始めました。この 4 章を見ると、神殿の責任者と思われる人たちとペテロとヨハネのやりとりがよくわかります。どうなったのでしょうか。

1. 二人は続けて神殿で人々に語り続けていましたが、どうして多くの人たちが二人に耳を傾けたのでしょうか。また、男だけでも 5000 人が二人の話を信じたと記されています。どうして、それほど多くの人たちが二人の話を信じたのでしょうか。

2. 翌日、ユダヤ人の指導者、長老、学者たちがエルサレムに集まりました。大祭司とその一族も集まりました。そして、二人への尋問を始めます。その尋問の言葉について、何か気づくことがありますか。

また、二人の堂々とした弁明から、何か気づいたことがありますか。

3. 指導者たちは二人をおどしたうえで釈放するしかありませんでした。指導的な立場にいた人たちは何を恐れていたと思いますか。

4. 釈放されたふたりは仲間のところいき、すべてを報告します。それを聞いた人々はひるむどころか、大胆に語らせてください、と熱心に祈ります。それまでの弟子たちとはかなり違うように思います。それは聖霊(神の霊)の働きとしか表しようがありません。聖霊は弟子たちにどんな変化をもたらしたのでしょうか。現代の私たちとは、時代も文化も違いますが、私たちにもあてはまることは何でしょうか。

[参照]

- **指導的な立場にいる人たち**：民の指導者、長老、学者たちによってユダヤ議会が構成されていた。メンバーは 70 人で、さらにそのときの大祭司が加わり、議長を務めた。
- **大祭司**：祭司の長であり、神の前に民を代表するものである。祭司職以外に、年に一度、神殿の中にある至聖所しせいじよというところに入り、民の罪のために贖いをした。

ここで、再び弟子たちの生活の様子が描かれています。また、弟子たちの働きも描かれています。

1. 信じた者の群れは、心と意思を一つにして、だれひとりその持ち物を自分のものと言わず、すべてを共有にしていた、と書かれています(4:32)。このときの人々の心はどういう状態だったのでしょうか。想像してみてください。
2. アナニヤとサツピラ(サフィラ)の行動が 5 章のはじめに記されています。どうして、この夫婦は、こういう行動をとったのだと思いますか。
3. ペテロは二人の欺きを見破ります。どうして見破ることができたと思いますか。
4. 自分たちの欺きを見破られた二人は、息が絶え、葬られる結果になります。二人の死因はなんだと想像しますか。
5. このことを聞いた人たちは非常に恐れた、と書かれています。どういう思いになったのだと思いますか。
6. もう一つの特徴は 12 節や 16 節に書かれている、奇跡的な働きです。イエスを信じた人々の当時の生活や働きを見ると、神の働きについてどんなことを学べるでしょう。

イエスは教えを説き、人々をいやしましたが、宗教家たちはイエスに敵対しました。弟子たちの働きに対しても大きな抵抗がありました。そのことがこの箇所にも書かれています。

1. サドカイ派の人たちはみな、ねたみに燃えて立ち上がり、使徒たちをとらえ、留置場に入れた、と書かれています。どうしてでしょうか。
  
2. 大祭司とその仲間たちは集まって来て、議会とイスラエル人のすべての長老を招集しました。どうするつもりだったのでしょか。
  
3. 大祭司とその仲間たちを突き動かしているものと、使徒たちを突き動かしているものはまったく違うように見えます。何がこの人たちを突き動かしていたのでしょうか。
  
4. 使徒たちが殺されかけたとき(33 節)、神は不思議な方法で彼らを救われました。そのことについてどう思いますか。

**[参照]**

- ・ **サドカイ派**：サドカイ派は、ユダヤ教諸派の中では少数派だったが、貴族階級に属し、彼らの中から大祭司が選ばれた。彼らは、モーセ五書に記された律法だけを権威ある神の言葉として受け入れ、モーセ五書に書かれていない肉体の復活や死後のいのち、天使や霊は存在しないと考えていたようだ。そうなるに興味はおのずと現世的なことに傾き、政治的、世俗的なことに関心が強かったと言われている。聖書に祭司長たちという言葉が出てくるが、その人たちの多くはサドカイ人だった。



この章から始まり、使徒たちを中心とした働きは新たな展開を見せます。

1. 未亡人への配給のことで問題が起きたようです。どういうことが起きていたと想像しますか。  
(未亡人は何人くらいいたのでしょうか。)
2. その問題に対処するため、使徒たちは解決案を出します。この解決案をどう思いますか。  
その解決案を全員（すべての群れ）が承認したとありますが、どういうプロセスをへて承認したのでしょうか。
3. 信仰と聖霊に満ちた人をどのようにして選んだのでしょうか。
4. リベルテンの会堂に属する人々とステパノが衝突したようですが、どういうことが起こったのでしょうか。
5. この個所から学んだことが何かありますか。

**[参照]**

- **ギリシャ語を使うユダヤ人たちとヘブル語を使うユダヤ人たち**：ギリシャ語を使うユダヤ人はヘレニストと呼ばれ、イスラエル以外の土地で生まれ育った人たちで、ヘブル語を使うユダヤ人はヘブライストと呼ばれ、イスラエルの土地に生まれ、育ったユダヤ人だ。育った背景や言葉の違いから、両者の間に、ある種の誤解や行き違いが生じてきたようだ。
- **選ばれた 7 人**：「選出された七人は、その名前がみなギリシャ名であり、彼らがヘレニストであったと推測される。」(3)ヘレニストのやもめの配給のことが発端となったが、それ以外にも問題があったと思われるので、バランスをとるために、ヘレニストを選んだのではないだろうか。
- **リベルテンの会堂**：「<リベルテン>(ギリベルティノイ)は[ラ]では libertinus(自由にされた者)から来た語で、奴隷の身分から解放された人々やその子孫のことを意味していた。」(4)おそらく、ヘレニストであって、奴隷から解放された人たちが最初少しずつエルサレムに集まって来て、同じ境遇だった人たちと会堂を建て、初めは小さかったが徐々に大きくなって行ったと思われる。

1. ステパノは旧約聖書に書かれているイスラエルの歴史を見事にまとめて話していますが、彼はどのようにしてこのような知識をえたのでしょうか。
2. その歴史の出来事の中で個人的に印象に残った箇所がありましたか。
3. ステパノがこのように話せば、聞いているユダヤ人の怒りを買うことは分かっていたと思います。それにもかかわらず、どうして、ステパノはこのように話したと思いますか。
4. ステパノを石で打ち殺したときに、証人たちはサウロ(後のパウロ)という青年の足もとに上着を起きました。どうしてサウロの足もとに置いたのでしょうか。
5. この章から個人的に学んだことがありましたか。

**[参照]**

- **証人たち**：ユダヤでは証人たちがいなければ刑罰の執行が行えないので、証人たちがいたことから、「ローマ当局の認可という一点を抜きにすれば、公式の手続きに基づいて行われていたことがわかる。」(5)
- **サウロ**：ユダヤ名はサウロだが、ローマ人向けの名前も持っていた。パウロがその名前である。彼はギリキヤのタルソ出身である。「ユダヤ人で、本国のパレスチナ以外の土地に住む者が二通りの名前を用いることは珍しくない。」(6)  
 彼は後に、異邦人(ユダヤ人以外の人々)に宣教する使徒として、神から選ばれた。パウロの働きがなければ、イエスの名前が世界中に知らされ、イエスを信じる人たちが起こることはなかっただろう。

ステパノの死をきっかけに、イエスを信じる者たちへの激しい迫害がはじまります。しかし、それは同時にイエスの福音(よい知らせ)が広がっていくきっかけにもなりました。

1. 使徒たちはどうしてエルサレムにとどまることができたのでしょうか。(ステパノはギリシャ語を話すいわゆるヘレニストと呼ばれるユダヤ人でした。)
2. ユダヤ人とサマリヤ人は犬猿の仲だったようですが、どうしてピリポはサマリヤに下って行ったのだと思いますか。
3. ペテロとヨハネがピリポの話信じた人たちに手を置くと、その人たちは聖霊を受けた(17節)と書かれています。どうして聖霊を受けたと分かったのでしょうか？まわりの人たちにわかる形で聖霊を受けることが、この段階でどうして必要だったと思いますか。
4. 後半では、エチオピアの宦官がピリポの話を聞いて洗礼を受ける話がでてきます。ここから何を学ぶことができるでしょうか。
5. 全体を通して、なにか個人的に助けになったことがありましたか。

**[参照]**

- ・宦官：「私室、寝室をつかさどる家令。古代東方諸国では、この職務に任ぜられた者はすべて去勢された(イザ 56:3、マタ 19:12)」(7)。彼はユダヤ教に回心した者ではないが、神を敬う者として、エルサレムに参拝して、帰途についていたのだろう。

サウロはイエスの弟子たちへの迫害に燃えていましたが、劇的な出来事に出会い、全く変わってしまいます。イエスの弟子たちを迫害していた者が、イエスの福音を伝える者へと変わりました。どのようにしてそうなったのかがこの章に書かれています。

1. ダマスコの近くまで来たとき、突然、天からの光がサウロを巡り照らし、天から声がしました。サウロに同行していた人たちは、どう思ったでしょう。
2. サウロは3日の間、目が見えず、飲み食いもしなかったと書かれています。(9 節)  
 どういう思いでいたのでしょうか。また、何を考えていたと思いますか。
3. サウロは目が見えるようになり、数日の間、ダマスコの弟子たちとともにいました。そして、突然、諸会堂でイエスは神の子であると宣べ伝え始めます。サウロの心にどのような変化が起こっていたのだと思いますか。どうして、そんなに急に変わったのでしょうか。
4. サウロはエルサレムに着いて、弟子たちの仲間に入ろうとしますが、みなは彼を弟子だとは信じないで、恐れていました。もし、あなたが、その場にいる弟子だとすれば、サウロのことをどう思うでしょう。どう対応するでしょう、
5. バルナバはサウロを引き受けて、使徒たちのもとに連れていきます。どうして、バルナバは、そうすることができたのでしょうか。
6. サウロはギリシャ語を話すユダヤ人たちと語ったり、論じたりしました。どうしてだと思いますか。

**[参照]**

- **ダマスコ**：ダマスコには、かなりのユダヤ人が住んでいたようである。

サウロのことが語られた後、ペテロの話に移ります。8 章でサマリヤに行った後のことが書かれているのでしよう。

1. ペテロはあらゆるところを巡回したと書かれていますが、どのあたりを巡回し、何をしていたと思いますか。
2. ペテロはルダで、8 年もの間、中風で床に横たわっているアイネアという人に出会います。偶然出会ったのでしようか。
3. アイネアを見て、ペテロは「立ち上がりなさい。そして自分で床を整えなさい」と言います。すると彼は直ちに立ち上がりました。どうして、ペテロはすぐにこのように言ったのだと思いますか。
4. ヨッパにタビタという女の弟子がいて、多くのよい行いと施しをしていましたが、病気になり死にました。弟子たちはどうして、ペテロを呼びに使いを出したのだと思いますか。
5. ペテロはこの女性を生き返らせますが、イエスのやり方と似ています。それにしても以前に比べると、ペテロはかなり大胆になっていると思いますが、どういう理由が考えられますか。
6. この箇所から、個人的に考えさせられたことが何かありましたか。

前章で、ペテロが巡回してしたことが記されていましたが、この章では、ペテロの考えが大きく変えられる出来事が起こります。異邦人(ユダヤ人でない人々)にイエスの福音が伝えるにあたって、一つの布石となる出来事だとも言えるでしょう。

1. コルネリオというローマの百人隊長が登場します。「彼は敬虔で、全家族とともに神を恐れかしこみ」(2 節)と書かれています。ユダヤ人でないコルネリオが、どのようにして神を恐れかしこむようになったのだと想像しますか？
2. 神はコルネリオにみ使いを送られます。コルネリオを選ばれた理由があるとすれば、それは何でしょうか。
3. ペテロの考え方が変わるように神は工夫されているように見えます。自分の今までの考え方が変わったペテロは、そこに集まっていた、異邦人(ユダヤ人でない人々)にイエスのことを伝えました。すると、ペテロの言うことに耳を傾けていたすべての人々に聖霊が下りました。ペテロの話を聞いていた人々はどのような心で聞いていたと思いますか。
4. 目に見える形で聖霊が下るのは、これで三度目です。このとき、見える形で聖霊が下ることがどうして大切だったと思いますか。
5. この章の中心となるポイントを挙げるとすれば、何でしょうか。
6. この章から、個人的に学んだことが何かありますか。

**[参照]**

- **イタリヤ隊の百人隊長**：イタリヤ隊というのは、文字通りイタリヤ人によって編成されていたと考えられる。コルネリオは、その百人の兵士の隊長であった。
- **神を恐れかしこむ人**：「異邦人の中で割礼こそ受けなかったが、ユダヤ教の信仰を持っている人を意味している。」(8) これは改宗者ということではない。改宗するには割礼が求められた。成人してから割礼は苦痛を伴うので、特に男性の改宗者は少なかったようだ。

さらにイエスの福音(良い知らせ)は、異邦人への広がりを見せて行きます。

1. 迫害によって散らされた人々は、ユダヤ人以外にイエスのことを語りませんでした。彼らにはどう  
いう発想があったのでしょうか。
2. ところが、アンテオケに来てからは、散らされた人々の中のキプロス島やクレネから来た人たちが  
ギリシャ人にもイエスのことを伝えました。どういう人たちに話しかけたと思いますか。どうして  
アンテオケに来て、このような行動をとったと想像しますか。
3. 彼らがギリシャ人にもイエスのことを語った結果、多くの人が神に立ち返りました。そのうわさが  
エルサレムにある教会にも聞こえてきたので、バルナバがアンテオケに派遣されました。どうして  
バルナバが派遣されたのだと思いますか。彼の役目は何だったのでしょうか。
4. バルナバは自分だけでは手が足りないと思ったのか、サウロ（パウロ）を探しにタルソまででかけ  
ます。どうして、バルナバはサウロを探して連れてきたのだと思いますか。
5. 弟子たちはアンテオケで初めて、キリスト者（クリスチャン）と呼ばれるようになりました。それ  
まではとくに呼び名はなかったのでしょうか。このことから、どんなことが考えられますか？

[参照]

- **バルナバ**：キプロス生まれのユダヤ人で「慰めの子」という意味の名前の人物である。
- **アンテオケ**：「ユダヤ人と異邦人、ギリシャ人と非ギリシャ人が、肩と肩とをすれ合わせ、地中海  
文明がシリアの砂漠に出会う国際都市であった。」(9)アンテオケでは、ごく普通にユダヤ人、ギリ  
シャ人、その他様々な人種の人たちが出入りしていた。そういう国際的な環境にあったので、こ  
こでは、宗教や人種へのこだわりが強くなく、新しいものを受け入れる余地が大きかったと思わ  
れる。
- **キリスト者**：アンテオケでは、迫害もなく、イエスを伝える者が聴衆を集め語っていたと考えられ  
る。またイエスを信じる者たちが集まって話していたこともあるだろう。当然、人々にも目立ち  
始め、人々はこういうようになった。「あっ、この人たちはいつもキリストのことを話している人  
たちだ。キリストの民さ、クリスチャンだよ」。(10)

アンテオケで、ユダヤ人以外の人々がイエスを信じるようになったことをみましたが、場面は一時エルサレムに戻ります。イエスを信頼する人々は続けて試練のなかにはありました。

1. ヘロデ王(ヘロデ・アグリッパ 1 世)(17)は、どうして、教会のなかのある人々を苦しめようとしたのだと思いますか。エルサレムのユダヤ人の心になにか変化があったのでしょうか。
2. 次にヘロデはペテロを捕らえました。ペテロを選んだ理由がなにかあったのでしょうか。
3. ヤコブが殺され、今度はペテロが捕らえられました。この非常事態に教会はペテロのために、神に熱心に祈り続けていたと書かれています。何を祈っていたと思いますか？
4. もし、あなたがペテロだったとすれば、牢のなかで、どういう気持ちになったでしょう。
5. 神の使いに助け出されたペテロは、初めは夢心地で、現実のこととは思えませんでした。けれども、現実だと分かると、集まって祈っている仲間のところに行きました。最初、女中の知らせを聞いた仲間たちは、女中の言葉を信じることができないで、「あなたは気が狂っている」と言いました。その後ペテロの話聞いて、彼らの考え方にどんな変化があったと思いますか。
6. 自分の地位、権力のために使徒たちを殺し、苦しめたヘロデは死んでしまいます。片やペテロたちが語る福音は、ますます多くの人々に伝えられて、広まっていきました。この章全体を通して、何か考えさせられることがあれば、分かち合ってください。

**[参照]**

- ・ヘロデ王(ヘロデ・アグリッパ 1 世):「彼は紀元 37 年に王の称号を与えられ、41 年に従来 of 領地にユダヤとサマリアを加えられて事実上パレスチナ全土の王となり、…」(11)アグリッパは、子どもの頃ローマにいたこともあり、当時の皇帝と親しく、そのおかげで地位を築けたと言える。そのため、ローマに好意をもたれるように動いた。また、治安を乱されることのないように、ユダヤ人たちの好意を得ようとも働きかけていた。



バルナバとサウロはアンテオケに戻ります。ここから、主役はパウロ(サウロ)へと移り、主に異邦人への伝道が描かれています。

1. アンテオケでいく人かの預言者や教師が集まり、主を礼拝し、断食していると、聖霊が、バルナバとサウロを私が召した任務につかせなさい、と語りかけます。彼らはどういうところに集まり、具体的に何をしていたと想像しますか。
2. 同行していたヨハネ(使徒 12 : 12 参照)は一行から離れました(13 節)。どうしたのだと思いますか。  
(使徒 15 : 36-40 参照)
3. 彼らの伝道のスタイルは、まず会堂へ行き、そこにいる人々に語るというものです。会堂に集まる人と言えば、ほとんどがユダヤ人です。異邦人にキリストを伝えるようにと (使徒 9 : 15 参照) 送りだされた彼らは、どのように異邦人に宣べ伝えようと考えていたと思いますか。
4. パウロが主に話す人だったようです。ピシデヤのアンテオケでは、会堂でパウロが話した後、集会が終わってからも多くの人たちが二人についてきた(43 節)と記されています。さらに次の安息日には、ほとんど町中の人々が、神の言葉を聞きに集まって来た、と書かれています。どうしてこのようなことが起こったと想像しますか。
5. 異邦人たちは喜び、ユダヤ人たちは神を敬う貴婦人たちや町の有力者たちを扇動して、二人を迫害させ、その地方から追い出しました。このことから、何かわかることがありますか。
6. この章から何か考えさせられたことがありましたか。

パウロとバルナバのキリストを伝える旅行は続き、キリストを信じる人々が生まれると同時に、反対や迫害に会います。

1. イコニオムでは大勢の人々がキリストを信じ、町が二派に分かれるほどでした。どうして、そのように多くの人々がキリストを信じたのでしょうか。
2. パウロはルステラで話をしていたとき、足の不自由な人に目をとめ、いやされる(救われる)信仰があるのを見て、その人に「自分の足で、まっすぐに立ちなさい」と言いました。どうしていやされる信仰があるとわかったのでしょうか。(9 節)
3. パウロとバルナバは石打ちにされ、死んだものと思われましたが、立ちあがって町にはいつて行きました。何が起こったのだと思いますか。
4. 二人は迫害を受けた町々に引き返しますが、なぜそうしたのでしょう。そこまでの理由は何だったのでしょうか。
5. ここから何か学べることはありましたか。

非ユダヤ人の人々がキリストを信じ始め、パウロたちの異邦人伝道が進んでいきました。一方、ユダヤ人でキリストを信じた人々の中で、非ユダヤ人も割礼を受けるべきだと主張する人(割礼派)がいました。そのとき、指導者がこの問題にどう対処したかがこの章に記されています。

1. パウロとバルナバ、そしてその仲間の幾人かが使徒たちや長老たちと話し合うためにエルサレムに上ります。どうして、彼らはそこまでしたのでしょうか。
2. エルサレムでの話し合い(エルサレム会議とも言われる)で、パウロたちが主張していたことが認められることとなりますが、その結論に至るのに、どういうことが助けになったのでしょうか。
3. ヤコブ(イエスの兄弟ヤコブだと思われる)がこの会議をまとめたと思われます。その結論から、彼について分かることはありますか？
4. この会議の結論はどのような重要性があるでしょう。もし、割礼派と言われる人々の言い分が通れば、どうなっていたのでしょうか。

**【参照】**

シメオン：ペテロのこと

エルサレムでの話し合いがうまく進み、パウロとバルナバはアンテオケに帰ってきました。しばらくして、パウロは「先に主のことばを伝えたすべての町々の兄弟たちのところに、またたずねて行って、どうしているか見て来ようではありませんか」と言い、出発します。いわゆる第二次伝道旅行とよばれているものです。

1. 出発に際して、一緒に連れていく人のことで、パウロとバルナバは意見が分かれ、激しい議論となりました。二人の考え方はどう違っていたのでしょうか。

また、この事件から何か学べることはあるでしょうか。[この後、バルナバのことは語られず、パウロのことだけが記されるようになります。また、後にパウロはマルコと呼ばれるヨハネが、彼の働きに役立つ者だと評価しています(Ⅱテモテ 4 : 11)]

2. ルステラでパウロはテモテという信者に出会います。テモテの父はギリシャ人で母はユダヤ人でした。パウロはこのテモテと一緒に連れて行きたかったので、彼に割礼を受けさせました。エルサレムで話し合った内容に反するようには見えますが、パウロはどう考えていたのでしょうか。(16 : 3)

3. パウロたちは占いの霊につかれた若い女奴隷の主人たちに訴えられ、投獄されます。パウロとシラスは牢の中で何を思っていたと想像しますか。

4. 地震の後、看守は、どうしてパウロたちに、「先生がた。救われるためには、何をしなければなりませんか。」と尋ねたのでしょうか。

5. 捕らえられたときには何も言わないで、釈放されることになったとき、パウロたちは、自分たちがローマの市民権を持っていることを明らかにします。どうしてだと思えますか。

パウロとシラスの伝道旅行は続きます。行く先々で、二人の話を受け入れる人がいる一方、激しく反対する人々もいます。パウロはアテネに行き、そこでも論じ合います。

1. パウロはテサロニケで、三つの安息日にわたり、会堂で聖書に基づいて論じたと書かれています。テサロニケのユダヤ人には、まだパウロのことが知られていなかったのでしょうか。
2. ねたみにかられたユダヤ人たちは、暴動を起こして町を騒がせ、ヤソンの家を襲ったと書かれています。ヤソンとは、どういう人物だと想像しますか。
3. テサロニケのユダヤ人たちは、パウロがベレヤでも神のことばを伝えていることを知り、ベレヤにやってきて、群衆を扇動し、騒ぎを起こしました。そのとき、シラスとテモテはベレヤに踏みとどまり、パウロはアテネまで行きます。どうしてだと思えますか。(14,15 節)
4. パウロはアレオパゴスで話をします。それまでユダヤ人に話していたメッセージとは少々違うようです。パウロのこの時の話には、どういう特徴があるのでしょうか。どうしてこのように話したのだと思えますか。(22 節～)
5. この個所から個人的に何か学んだことがありますか。

**[参照]**

- ・**エピクロス派、ストア派**：ごくおおざっぱにいうと、エピクロス派は快樂主義でストア派は禁欲主義だと言われる。快樂主義と言っても肉体的な快樂ではなく、精神的なものを求める考え方である。また禁欲主義の背景にあるのは、理性を重んじる考え方である。その考え方がここでは中心でないので、簡単な説明にとどめる。
- ・**アレオパゴス**：アテネのアクロポリスの近くにある低い丘の名前である。この場所に集まったと単純にとらえることもできる。しかし、アレオパゴスというのは、そこで裁判が行われたこともあり、新改訳聖書では、欄外に「アレオパゴスの議会」と書かれているように、単なる丘の名前として使われたのではないであろう。

なおもパウロは伝道旅行を続けます。この章は、彼の第二次伝道旅行の終わりと第三次伝道旅行の始まりを記しています。

1. クラウドオ帝はどうしてユダヤ人をローマから退却させるように命令したのでしょうか。
2. パウロはコリントでアクラとプリスキラに出会ったと記されていますが、どのような経緯で出会ったと想像しますか。
3. シラスとテモテがマケドニアからくると、パウロはみことばを教えることに専念します。どうしてそれが可能になったのでしょうか。
4. 「今から私は異邦人のほうに行く」(6 節)とパウロは語っていますが、彼はどのような思いをもっていたのでしょうか。パウロ自身は元々、異邦人にイエスを伝えるために神に呼び出されたと思うのですが。
5. シリヤに向けて出帆したとき、アクラとプリスキラもパウロに同行します。どうしてだと思いませんか。

**[参照]**

- ・ **髪をそる**：旧約聖書に書かれていることに従ったのであろう（民数記 6：1-20）。どういう誓願を立てていたのかはわからないが、その誓願の期間が終わったので、髪をそったと考えられる。

ヨハネのバプテスマが話題になり、後半では、エペソでの騒動が話題になっています。

1. アポロがヨハネのバプテスマしか知らなかったというのは、どういう意味でしょう。
2. エペソの弟子たちが主イエスの名によってバプテスマを受け、パウロが彼らの上に手をおいたとき、聖霊が彼らに臨まれたと記されています。これはどういう意味をもつのでしょうか。(19 : 6)
3. 反対者がいたにもかかわらず、パウロが二年間もエペソにいて主のことばを語ったのはどうしてだと想像しますか。(10 節)
4. 神はパウロによって驚くべき奇跡をおこなわれました。それを見て、ユダヤ人の魔よけ祈祷師の中のある者たちが、主イエスの名によって悪霊を追い出そうとしました。その結果はひどいものでした。この出来事は、エペソに住む人々にどのような影響を与えたでしょう。
5. デメテリオという銀細工人が同業者たちを集め、パウロの説教のおかげで、自分たちの仕事の信用を失う危険があると訴えかけ、騒ぎを起こしました。この事件から、どんなことがわかるでしょう。(23-41 節)

**[参照]**

- **ツラノの講堂** : ツラノという人物についてはよくわからない。一説では、暑い時間帯、午前 11 時から午後 4 時にパウロがその講堂を使ったとされる。
- **アルテミス神殿** : アルテミスの女神がまつられていた。母としての女神、また、豊作をもたらす女神としてあがめられた。毎年、その祭りには、多くの人を訪れ、商売人にとっては、稼ぎ時であった。

この章は、パウロがエペソの長老たちを集めて語った話がかんりの部分を占めています。

1. パウロには同行する者たちがいました。同行者たちの顔ぶれから何か分かることがありますか。(4 節)
2. パウロが夜中まで語り続けたので、窓のところに腰をかけて聞いていたユテコという青年は、眠気がさし、3 階から落ちて死んでしまいました。しかし、パウロは彼を抱きかかえ、「心配することはない。まだいのちがあります。」と言いました。どういうことだったのだと思いますか。
3. パウロはエペソの長老たちを集めて、話をしましたその話の中で、どういうところが印象に残りましたか。(18-35 節)
4. 福音書には、「受けるよりも与えるほうが幸いである」という箇所は見当たりません。パウロは、どうしてイエスの言葉だと言ったのでしょうか。(35 節)
5. この章から、何か学んだことがありましたか。



パウロたちは、イエスを伝える旅(いわゆる第3次伝道旅行)を終え、エルサレムに向かいます。エルサレムで苦難が待ち受けていることを忠告されますが、それでもパウロはエルサレムに向かいました。

1. ツロにいる弟子たちは、聖霊に示され、エルサレムに上らないようにとパウロに忠告しました。またカイザリヤではアガポという預言者が、エルサレムでパウロは苦難をうけるだろうと話しました。それにもかかわらず、パウロはエルサレムに上りました。どうしてだと思えますか？
  
2. アジアから来たユダヤ人たちは、群衆をあおりたて、パウロに手をかけました。このユダヤ人たちは信者だったのでしょうか？
  
3. ユダヤ人の信者たちは、パウロがモーセにそむくよう、異邦人(非ユダヤ人)の中にいるすべてのユダヤ人に教えている、と聞かされていきました(21節)。エルサレム会議で決まったことを異邦人の信者たちに書き送りました。使徒たちは、ユダヤ人の信者たちにそのことを説明できなかったのでしょうか。
  
4. パウロは捕らえられても、冷静に見えます。実際のところはよくわかりませんが、もし冷静でいられたとすれば、どうしてだと思えますか。
  
5. この章から、何か学べることはありましたか。

パウロはユダヤ人たちの誤解により、殺されそうになりますが、最後には、ローマ軍に捕らえられました。その結果、弁明する機会が与えられることになります。

1. パウロが話している途中、人々は「こんな男は地上から除いてしまえ。生かしておくべきではない。」と叫び声をあげました。どうしてだと思いませんか。(22 章 22 節)
2. 自分がローマ市民であることをパウロは百人隊長に言いました。どうしてだと思いませんか。(22 章 25 節)
3. パウロは 23 章 5 節で謝罪ともとれる発言をしています。これは本心から悪いと思ったからでしょうか。
4. パウロの姉妹の子が、ユダヤ人たちの待ち伏せのことを兵営に入り、パウロに知らせました。簡単に兵営に入れたのでしょうか。パウロの姉妹はイエスを信じていたと思いませんか。(23 章 16 節)
5. この個所から何か学べることはありましたか。

パウロはユダヤ人たちに訴えられますが、弁明する機会も与えられます。

1. 大祭司が長老数名と弁護士を連れて総督にパウロを訴えるためにやってきます。その訴えの中で、「ナザレ人という一派の首領です」とパウロのことを表現しています。そのことから、どういうことが読みとれるでしょう。(24 章 5 節)
  
2. 数日後、総督ペリクスはユダヤ人である妻ドルシラを連れて来て、パウロを呼び出し、キリスト・イエスを信じる信仰について話を聞きました。そのとき、パウロは正義と節制とやがて来る審判を論じました。どうしてそのような内容を語ったと思いますか。(24 章 25 節)
  
3. ペリクスはパウロから金をもらいたい下心があった、と記されています。どうして、パウロから金が取れると考えたのでしょうか。
  
4. パウロはカイザルに上訴します。どうしてそうしたと思いますか。(25 章 11 節、26 章 32 節)
  
5. アグリッパの前で弁明の機会が与えられ、パウロは自分の回心の経験を交えて話をします。この使徒の働きで、パウロの口からその回心のことが語られるのは 2 回目です。これはどういうことを表しているのだと思いますか。
  
6. 弁明に際してのパウロの姿勢から何かわかることはありますか。
  
7. 個人的に学んだことがありましたか。

いよいよパウロがローマに連行されることとなります。そこにも不思議な神の導きがあり、奇跡的にいのちを取りとめ、ローマに到着します。

1. パウロはこれからの航海について、どうなるかを確信をもって語っているように聞こえます。どうして、このように言えたのでしょうか。(27 章 10 節)
  
2. 水夫たちが舟から逃げ出そうとしていることに水夫たちは気づかなかったようですが、どうしてパウロにそのことがわかったのでしょうか。(27 章 30, 31 節)
  
3. それまで食事をとっていませんでしたが、パウロが食事をとるように勧めると、誰も反対するものはありませんでした。どうしてだと思えますか。
  
4. 舟が浅瀬に乗り上げたとき、兵士たちは、囚人たちが誰も泳いで逃げないように殺してしまおうと相談しましたが、百人隊長はパウロを助けようと思いました。どうしてでしょう。
  
5. パウロはローマに行くことを願っていました(使徒 19 章 21 節)。彼の考えていた方法とは違っていたと思いますが、ついにローマにやってきました。そしてローマで、パウロは囚人でありながらも、かなりの自由が与えられていました(28 章 16 節、30, 31 節)。どうしてだと思えますか。
  
6. ここから、何か教えられたことがありましたか。

## 引用

1. 新約聖書註解 F.F.ブルース著 使徒行伝（聖書図書刊行会 1970年） 36頁
2. 新聖書注解新約 2 斎藤篤美著 使徒の働き(いのちのことば社 1973年) 69頁
3. 新聖書注解新約 2 斎藤篤美著 使徒の働き(いのちのことば社 1973年) 86頁
4. 新聖書注解新約 2 斎藤篤美著 使徒の働き(いのちのことば社 1973年) 87頁
5. 新聖書注解新約 2 斎藤篤美著 使徒の働き(いのちのことば社 1973年) 93頁
6. 聖書辞典(いのちのことば社 1977年) 509頁
7. 聖書辞典(いのちのことば社 1977年) 195頁
8. 新聖書注解新約 2 斎藤篤美著 使徒の働き(いのちのことば社 1973年) 103頁
9. 新約聖書註解 F.F.ブルース著 使徒行伝（聖書図書刊行会 1970年） 263頁
10. 新約聖書註解 F.F.ブルース著 使徒行伝（聖書図書刊行会 1970年） 264頁
11. 新聖書注解新約 2 斎藤篤美著 使徒の働き(いのちのことば社 1973年) 111頁